パリ・コミューンにおける警察官の役割
－司直として、公共福祉の支援者として－（後編）

「警察官ハ眠ル事ナク安坐スル事ナク晝夜企足シテ怠タラザルベシ」（川路利良『警察手眼』、5頁　1876年）

高　橋　則　雄

はじめに（前編）
１．警察組織（前編）
２．コミューンの司直として　－警察の姿勢（１）－（前編）
３．民衆とともに　－警察の姿勢（２）－　（後編）
４．まとめ　（後編）

（承前）

３．民衆とともに　－警察の姿勢（２）－

本節では、民衆が日常生活を維持するうえで、欠かすことのできない社会の安寧と福祉に貢献した警察の活動を考察する。

民衆の日常生活に警察が関与した事例として、最初に、パリを包囲していたプロイセン軍の砲撃による被害者の救済活動をとりあげる。

ナポレオン三世が、1870年9月に北仏スダンで降伏すると、プロイセン軍はただちに首都パリへ侵攻して包囲戦が始まった。さらに、10月にはパリ市内にむけて砲撃を開始。翌年1月になると、射程距離が長いクルップ砲を新たに配備し、カルチェラタンやリュクサンブール公園など市内中心部にまで砲撃の範囲を拡大した。1月9日にリュクサンブール公園に着弾した砲弾だけでも約500発を数える。これらは、戦闘と直接的な関わりのない一般市民への攻撃であった。砲弾の発射地点の丘から識別できる病院施設も被弾していることから、無差別攻撃ともいえる[1]。

このような事態に対して、パリ・コミューン下の各区では行政組織と警察が住民の救済にあたった。4月30日、第17区の区評議会Conseil communalでは委員T.シャテ[2]が、砲撃の被害に遭った住民のための住まいの提供を、隣接する第8区の区行政関係者に呼びかけている[3]。この時期その件数はジュフロワ街のクレマンス一家をはじめ約30件に及んでいた。5月5日には、同区カルディネ街在住の機械工フォレ氏と馭者ゴベリ氏が砲撃の被害に遭い住居を失ったことを近隣の人物2名

1　E. Hennebert, *Le bombardement de Paris par les Prussiens, en janvier 1871,* Paris, 1872.

2　François Chaté (1841- ?). 商人、インターナショナル・パリ支部バティニョル地区委員、第17区役所職員（*D.B.M.O.F.,* t. 5, p. 78）。

3　A.H.G., Ly16, ms. « Le conseil communal du 17ème Arr. prie ses collègues du 8eme ... »

の証言を添えて、宿泊施設委員会Commission des logementsへ申請するための調書を同区バティニョル地区警察警視H.ヴァトマル[4]が作成している[5]。同日にもう一人の警視ランベールが、ダニエル街の油商ウリ嬢宅の砲撃による被害について2名の証言を得て調書を作成し、同様に宿泊施設委員会へ申請している[6]。これらの文書からは、第17区の複数の警視たちが熱心に砲撃の被害者の救済にあたっていたことが伝わってくる。

5月11日には、第16区パシー地区マラコフ通り11番地の住人で、同区役所職員のアンリ＝二コラ氏の居住する家屋が砲撃の被害にあったことについて、同区コミューン議員ナピア-ピケ[7]が第8区のコミューン議員に宛てて書いた、第8区内に住居の斡旋を求めた書簡がある[8]。

このように、日常生活を営むうえで必須の条件である住居の確保という課題は、前節で述べた家賃支払いの不履行による住居の明渡し請求を無効とするデクレの執行と同様に、砲撃による被災者の救済においても、行政当局者と警察が共有していたのである。

加えて、包囲されたパリで困窮に陥った人びとを救うのも警察官の役目であった。それは高齢者をはじめとする貧困者、病人たち社会的弱者である。

第9区では、議員バユ・デュメニル[9]が区役所の手配と費用によって90床の困窮対策施設を4月14日、コンドルセ街29番地に設置し、同月16日月曜日よりいつでも使用できるとの文書を発出している[10]。第18区でも、4月17日、ラテラル通りに居住する家主の要請を受け、借家人母子のボルドー市への帰郷を支援するため、同区グランドキャリエール地区警察警視L.ネプヴ[11]が、当局へ提出するための旅費の免除を要請する調書を作成している[12]。第14区では、区行政委員会のプジェ[13]がペルヌティ街の高齢女性とメーヌ街、ダロー街、ゴゲ街、ブラール街の独身女性たち4名が極貧で生計が困難なため帰郷を希望しているが旅費がないことを近隣住民に証言させた調書を作成している[14]。第19区では、コンバ地区警察警視commissaire municipal L.トランベ[15]が、4月16日、ロザン街5番地に居住のシュメ夫人が身体不随のため日常生活が困難となり、サルペトリエル養護院へ緊急に入所できるよう福祉局Assistance publiqueで手続きをとるよう要請した[16]。こ

---

4 Hyppolite Vattemare (1820- ?). 西鉄道会社の管理職として20年以上にわたり勤務、哲学的著作を新聞に発表、1870年9月8日に臨時国防政府より警視に任命された（*D.B.M.O.F.,* t. 9, p. 283）。

5 A.H.G., Ly18, ms. « Nous, Commissaire de Police de la ville de Paris, et spécialement … »

6 A.H.G., Ly18, ms. « Nous, Commissaire de Police de la ville de Paris, et spécialement … » の余白に「第8区へ紹介」という注記がある。

7 Claude Napias-Piquet (1813-1871). 公証人、48年代から社会主義運動に参加、第1区選出コミューン議員、インターナショナル会員（*D.B.M.O.F.,* t. 8, pp. 30-31）。

8 A.H.G., Ly18, ms. « Aux citoyens membres de la Commune de Paris Délégué au 8ème … »

9 Jacques Bayeux-Dumesnil (1834- ?). 実業家、年金生活者、フリーメソン会員（*D.B.M.O.F.,* t. 4, p. 223）。

10 A.H.G., Ly18, ms. « Citoyen, Par les soins et les frais de la Municipalité de la 9ème … »

11 François Louis Émile Nepveu(1851- ?). 装飾彫刻師、コミューン下でノートル-ダム-ド-ラ-ロレット教会の復活祭ミサを妨害した。軍事法廷の欠席裁判で死刑を宣告されたが、ベルギーへ亡命し、後にフランス国内に潜入し過ごした（*D.B.M.O.F.,* t. 8, p. 38）。

12 A.H.G., Ly19, ms. « Nous, commissaire de Police, délégué civil au quartier des Grandes … »

13 Pouget (? - ?). 第14区オプセルヴァトワール地区暫定行政委員会メンバー、監視委員会委員（*D.B.M.O.F.,* t. 8, p. 234）。

14 A.H.G., Ly19, ms. « Nous, membres de la commune, constatons l'identité de la citoyenne … »

15 Louis Thorembey (?- ?). 経歴不詳（*D.B.M.O.F.,* t. 9, p. 211）。

16 A.H.G., Ly19, ms. « Citoyen, La citoyenne Schumer, agé de 74 ans, paralysée … »

こには、社会的弱者のなかでも、働き手を戦場にとられた女性たち、特に高齢者と独身女性たちの苦境が目立つ。そして、多くの女性たちが自身の解決策として帰郷を望み、警察官たちが職務としてそれを支援していたことを、調書Procès-verbalが明らかにしているのである。

遺棄された幼児を保護した警察官もいた。4月28日、第19区での出来事である。同区フランドル街76番地の路上に遺棄されていた、姓名不詳、保護者の住所不明の3歳半くらいと思われる小児をヴィレット地区警察の警視P.エロワ[17]が保護した。この小児を旧警視庁へ移送するに際して、服装の特徴の詳記し、食事を与え、移送費用4フランを要したことを、4月29日、旧警視庁第1部第5局宛てに報告している[18]。

第11区マルグリット地区警察署の警視C.ル-ノートル[19]は、5月6日、ヌーヴ-デ-ブレ街に居住する機械工（50歳）の男性からその妻（52歳）が精神疾患のため、自分自身で世話をすることができなくなり、施設への入所を希望するとの相談を受けた。ル-ノートルは、近隣の住民への事情聴取を踏まえて、その妻の病棟への隔離措置をとっている[20]。同様の事案として、一般の病院から療養施設への移送を、警察に協力を求めた例もある。セーヴル街のネケル病院長から依頼を受けた第15区警察署ネケル地区警察が、精神疾患の患者をアン療養所に移送するという許可を5月6日に出している[21]。警察官が精神疾患の患者の措置入院や移送に関与し、許可をおこなっていたのである。このような活動のなかから、人びとは日々の困窮や不安の解決を、それまでのように篤志家の善意や宗教関係者の慈善事業に頼るのではなく、公的支援を受けることが社会的権利であることを自覚し、個々人が地域の中で公的施策を通して共生する経験を重ねていったのである。

この他、窃盗、浮浪、自殺など多岐にわたる事件を日常的に処理していた。中には、病気療養のためパリを離れていたが、帰宅してみたら、妻が他の男性と連れだって家具を持ち出し、姿をくらましていたという、第10区ヴィックダジール街の男性からの訴えを受付けた3月31日付けの調書もある[22]。

4．まとめ

以上、多岐にわたった警察官の活動を、史料に基づき概観した。

パリ・コミューンは、「自治政府」としてさまざまな命令（デクレ等）の決定をおこなったが、それを執行するための機関をもたなかった[23]。本来、行政をつかさどるはずの省庁に相当する各種

17　Pierre Elloy (?- ?).指物師、軍事法廷の欠席裁判により懲役5年を宣告された（*D.B.M.O.F,* t. 5, p. 458）。

18　A.H.G., Ly192, ms. « Nous, commissaire municipal de quartier de la Villette, rue de Flandre ... »

19　Camille Le Notre (1842-1881). ブリキ職人、警視でありながら、国民衛兵第204大隊長を兼任した。ダム・ブランシュ修道院、サン-クール-ド-マリ団修道院、メール-ド-デュ修道院を捜索。軍事法廷により死刑判決、ついで終身強制労働の判決を受け、特赦により流刑地から「ロワール」号で帰国の途上、船内で病気のため死亡（*D.B.M.O.F.,* t. 7, pp. 123-124）。

20　A.H.G., Ly18, ms. « Devant Nous, Camille LeNotre, Commissaire de Police de la Ville de ... »

21　A.H.G., Ly19, mss. « Sur un certificat à vous dressé par le dirécteur de l'hopital ... »

22　A.H.G., Ly19, mss. « Procès-verbal, Devant Nous, Barthelemy Cirode Commissaire de ... »

23　「パリ・コミューンは立法と執行を兼ねた行動的機関でなければならなかった」（村田陽一訳）というK.マルクスの見解は、その根拠が示されていない。具体的説明を欠いているのである。K.Marx, intro. by R.W. Postgate, *Civil war in France,* London, 1921, p. 31. さらに附言するならば、社会主義運動、労働運動の擁護者、後裔を自称する党派、左翼知識人の多くは、「パリ・コミューンは、立法と執行を兼ねた行動機関であった」とさえ述べている。

の委員会は存在したが、それは検討機関に過ぎなかった。決定した命令を実行に移したのは各区の行政組織である。実際に各区では、さまざまな委員会を設置し業務を担当したが、命令として実施する際に強制性を必要とするものもある。教会を捜索し、本来の宗教活動にそぐわない奢侈物品を押収する際には、武力を背景にした強制権力を必要としたのである。

第11区のアンブロワーズ教会の神父も、第14区のパン屋の親方もパリ・コミューンが発したデクレを承知のうえで、捜索と押収に抵抗した[24]。パリ・コミューンは、必要に応じて、その権力の行使を警察官と国民衛兵たちの武力を拠り所にしたが、これを地域の強制力、たとえば行政担当者や民衆たちの手に委ねたとしたら、そこでは衝突、流血による混乱と惨事が頻発したに違いない。警察や警察官が、コミューン議会が制定した法律に従い、職務を忠実に遂行することによって、個人間の紛争や民衆の敵とみなされる人物への憎悪に基づく攻撃を回避させた役割の意義は大きい。M.デュ-カン[25]をはじめ、パリ・コミューンの無秩序や暴力を非難する多くの知識人や政治家がコミューンの崩壊後にあらわれたが、実際にはそのような非難に相当する事案は稀である。これは警察官の存在が大きかったことによる。むしろ、無秩序といえば、市内に侵攻したヴェルサイユ側の正規軍兵士による、反乱民衆に対する大量の銃殺と暴行の方がはるかに膨大であったろう。

以上のような観点からも、パリ・コミューンにおける警察制度について、これまでまとまった研究はみられなかったことは意外である。それどころか、ほとんど光があてられてこなかったといってよい。それは、コミューンの崩壊後に、警察関係者に対する厳しい追及と弾圧の中で、職務そのものが警察あるいは警察官としての行動として認められなかったことが大きく作用しているではないだろうか。ヴェルサイユ側による軍事裁判の場では、コミューン議会の決定に従い職務にあたった警察官の家宅捜索は脅迫行為とみなされ、押収は窃盗、略奪vol, pillageとして断罪されたのである。判決内容をみても、第11区のC.ル-ノートルや第14区のL.A.ベルタン[26]と第20区のL.ポロシュ[27]のように死刑あるいは終身刑、数十年に及ぶ禁固刑や強制労働が宣告されている。ここには、コミューン下で法令に基づき、整然と職務を執行した警察官に対する執拗で容赦のない断罪ぶりが示されている。

パリ・コミューンの警察や警察官の意義を認めなかったのは、パリ・コミューンを壊滅させたヴェルサイユ側だけではない。パリ・コミューンを擁護し、重要な発言を残したK.マルクスも、警察に関する叙述には錯誤が散見される。

『フランスの内乱』（K.マルクス著）の中で、3月18日の民衆反乱を讃えて、「じつにすばらしかったのは、コミューンがパリにもたらした変化である！（中略）もはや死体公示所に一つの死体もなく、夜盗もなく、窃盗もほとんどなくなった。じじつ、1848年2月事件以来はじめて、パリの街々は安全になった。しかも、どんな種類の警察もないのに、そうなったのである。」と述べている[28]。

---

24 前編、『専修総合科学研究』第28号（2020年10月）、62頁参照。

25 Maxime Du Camp, *Les Convulsions de Paris,* 4 vols., Paris, 1878-1880、ほか。

26 Louis Adolphe Bertin (1840- ?).植字工、インター会員、マルミト地区委員会で活動。3月末にモンパルナス地区の警視に任命された、軍事法廷により強制労働10年の刑を言い渡された（*D.B.M.O.F.,* t. 4, p. 277）。

27 Louis Porroche (1819- ?). 金属加工労働者、軍事法廷により禁固刑20年を言い渡された（*D.B.M.O.F.,* t. 8, p. 223）。

28 Marx, op.cit, p. 38. “… for the first time since the days of February, 1848, the street of Paris were safe, and that without any police of any kind.”

しかし、警察組織は厳然として存在していたし、前述（前編第1節）したとおりインターナショナル・パリ支部は警察の再組織化を要求する声明を出していた。事実、コミューン議会は決定したデクレの執行を警察に頼り、コミューン議員R.リゴー[29]が民事代表委員délégué civilを務める旧警視庁ex-Préfecture de policeという警察組織を設置していた。

パリ・コミューンによる種々の社会政策は、議会による決議や布告で知られているだけで、実際にどのように実行されたのか、それを詳らかにする先行研究は管見ながら、国内はもとより、フランスでもほとんどみられなかった。

とりわけ、コミューンの司直としての警察官の活動は、コミューン議会が制定したデクレや布告に基づき、現場における関係諸部署と連携し職務を執行したことからも軽視することはできない。民衆との関わりという点でも、民衆組織が前年の秋から検討を重ねてきた課題の実施を求めてコミューン議員や議会に表明した意向は、コミューン議会における採決に反映された後、実行の段階で民兵組織である国民衛兵の支援を受けていた。その現場では、警察官が度々国民衛兵を指揮していた。すなわち、主権者である民衆の声を行使する多くの場面において、警察は重要な役割を果たしていたのである。

コミューン議員たちとは異なり、普段は政治や社会運動と縁がなく、幾つかの例外を除くと、これといった政治的イデオロギーを身にまとっているわけでもない民衆と警察、国民衛兵組織が主権者としての姿を現出させていた。そこに、パリ・コミューンの特質があらわれていたといえよう。

最期に、警察官たちの経歴について触れた史料を少し引用してみたい。

コミューン崩壊後の1871年6月13日、第20区警察署ペールラシェーズ地区警察警視A.L.ヴェイスが作成した尋問調書には、元同地区警視P.E.モワローがコミューン下で警察官になったいきさつが記録されている[30]。また、ヴェルサイユ側軍事法廷予審判事が作成した第19区警察署コンバ地区警察の警察人事資料[31]には、前年の臨時国防政府からコミューンまでのいきさつが記録されており、臨時国防政府による警察組織の刷新が帝政期の弾圧体制に終止符を打ち、共和政を志向する体制のスタートであったことを示していた。仮に、このような予審過程の判断が軍事法廷に持ち込まれていたとすれば、第三共和政の正統的な後継者を主張するヴェルサイユ側にとって、コミューン下の警察機構を全面的に否定することはできなかったのではないだろうか。

ヴェルサイユ側によって、脅迫や窃盗、略奪の汚名を着せられたパリ・コミューンの警察官は、採用される際に、多くが共和主義者として活動することを宣誓していた。また、国防政府によって採用された警察官が、コミューン下においても継続して職務にあたった第17区の警視H.ヴァトマルのような例もある。これら警察官たちは職務の執行に際して、どのような知識を有していたのであろうか。第19区ヴィレット地区警察署の備品について言及した史料には[32]、『警察官マニュアル』*Manuel des Commisaires de Police*はもとより、『日用法典』*Codes et Lois usuelles*、『フラ

29　Raoul Rigault (1846 – 1871). 医学生、ジャーナスト、第8区選出コミューン議員、保安委員会、検事を務める。コミューン崩壊期に、検事として、聖職者の逮捕と処刑命令を下した。その後、ヴェルサイユ側正規軍の捕虜となり銃殺された（*D.B.M.O.F.,* t. 8, pp. 344-345）。

30　A.H.G., Ly19, mss. « Procès-verbal, Devant Nous, Auguste Lucien Veis dit … »

31　A.H.G., Ly19, mss. « Tribunal de 1ère instance du Dépt. de la Seine, Cabinet d’instruction … »

32　A.H.G., Ly19, mss. « Procès-verbal de l’entrée en possession du Commissariat … »

ンス法典』*Code de la Législation française*、『フランス語辞典』*Dictionnaire française(Napoléon Landry)*、『町村事典』*Dictionnaire des Communes*、『パン屋年鑑』*Annuaire de la Boulangerie*、『ヴィレット地区司法及び行政処分記録簿』*Répertoire des actes judiciaires et administratifs de la Villette* など、日常の業務処理に必要な法的知識とともに、文書記録簿などについての記載がある。

警察官の活動とその日付が記録された史料を読むと、ほとんど寝る暇もないくらい多忙な日々を送っていたことがわかる。本稿の冒頭に引用した、フランスの警察制度を範にして明治期日本に警察制度を導入し、活動した川路利良の言葉が想起される。川路は、パリ・コミューンの翌年、欧州視察に際して内戦の戦火によって灰燼と化したパリを目のあたりにしていた。政府に抗する民衆の情念とはいかなるものか。それを看取するに、あまりある光景だったろう。

本稿末に、パリ警視庁文書館所蔵史料（A.P.P., Ba364-3）から採録し、フランス国防省文書館所蔵史料（A.H.G., Ly17, 18, 19, 192, 22, 27）により補訂した、パリ市内の全20区と軍事委員会と隣接するサンドニ、ヴァンセンヌそれぞれの地区の警視を一覧表にして付した。

参考文献

史料

フランス国防省文書館 Archives Historiques de la Guerre（A.H.G.）

Ly16
Ly17
Ly18
Ly19
Ly192
Ly27
8J 10 d126

パリ警視庁文書館 Archives de Préfecture de police (A.P.P.)

Ba364-3

パリ市文書館 Archives de Paris（A.P.）

VD3 4

国立国会図書館（N.D.L.）

特70-324

外国語研究文献

BOURGIN, G. et HENRIOT, G., *Procès-verbaux de la Commune de 1871,* 2 vols., Paris, 1924, 1945.

GUINN, Eliza, *A spectacle of Vice : Sex work and moralism in the Paris Commune of 1871,* Thesis-Oberlin College, 2018.

HENNEBERT, Eugène, *Le bombardement de Paris par les Prussiens, en janvier 1871,* Paris, 1872.

MAITRON, J. (dir.), *Dictionnaire biographique du mouvement ouvrier français,* 6 vols., Paris, 1961-

1971
MAPRIL, Athanase, *Code-dictionnaire pratique de législation, de doctrine et de jurisprudence, en matières civiles, judiciaires et administratives,* Bordeaux, 1868.
NOËL, Bernard, *Dictionnaire de la Commune,* Paris, 1978
RABASSE, *Manuel portatif des commissaires de police,* Paris, 1825. 2. Éd.
Réimpression du Journal officiel de la République Française sous La Commune, Paris, 1871
REY, Alfred, *Histoire du corps des gardiens de la paix,* Paris, 1896.
ZACCONE, Pierre, *Mémoires d'un commissaire de police,* Paris, 1879.

邦語研究文献
上野芳久「フランス警察の歴史」『湘南工科大学』第24巻第1号1990年。
高橋則雄『パリ・コミューンにおける人民主権と公教育』（すずさわ書店、2019年）。
長井伸仁「「人権の祖国」の警察、自由・国民・秩序」（『近代ヨーロッパの探求13』ミネルヴァ書房、2012年所収）
K.マルクス（木下半治訳）『フランスの内乱』（岩波書店、1952年）。
J.ルージュリ『1871民衆の中のパリ・コミューン』（上村祥二・田中正人・吉田仁志訳、ユニテ、1987年）。

Résumé

Rôle des policiers dans la Commune de Paris - en tant que responsables de l'application des lois et partisans du bien-être public –

Norio TAKAHASHI

Il est surprenant qu'aucune étude approfondie n'ait été réalisée jusqu'à présent sur le système policier de la Commune de Paris. Au contraire, on peut dire qu'on ne lui a pratiquement pas prêté attention. Après l'effondrement de la Commune, dans le cadre de la poursuite et de la répression acharnées contre certains agents policiers, le fait que leurs fonctions elles-mêmes n'avaient pas été reconnues comme actes policiers ou d'agents de police, exerce une grande influence sur cela. Dans le procès militaire par l'armée gouvernementale de Versailles, la perquisition domiciliaire a été considérée comme un acte menaçant, et la saisie a été considérée comme du vol et du pillage par des policiers qui ont assuré leur service conformément au décret de la Commune et de fait, ils ont été condamnés. Au vu de la teneur du jugement, le commissaire du XIe arrondissement C. LeNotre(ferblantier) a été condamné à la peine de mort, peine des travaux forcés à perpétuité, le commissaire du XIVe arrondissement L. Bertin (typographe) a été condamné à 10 ans de travaux forcés, et celui du XXe, L. Porroche (ouvrier serurier), a été condamné à une peine de prison de 20 ans. La peine contre les policiers de la Commune était lourde. Cela reflète simplement le fait

que c'étaient les policiers qui, après la prise de pouvoir par le peuple, avaient pris la tête des actions pour le mettre en pratique.

D'ailleurs, ce n'est pas seulement l'armée gouvernementale de Versailles, qui avait anéanti la Commune de Paris, qui n'a pas reconnu la raison d'être de la police ou des agents de police dans la Commune de Paris. Dans la description concernant la police de K. Marx, qui avait défendu la Commune de Paris et fait d'importantes remarques à son sujet, on trouve aussi des aberrations par-ci par-là. Il n'a pas fait mention de la raison d'être de la police et des agents de police (cf. Marx, Civil war in France, 1921, p. 33).

Dans la section 1, en premier lieu; j'ai clarifié la structure de l'organisation de police à l'époque de la Commune de Paris. On a placé les commissariats de police dans 20 arrondissements de la ville, le quartier limitrophe Saint-Denis, Vincenne et dans la Commission militaire. Chaque arrondissement se composait d'un commissariat de police central qui administrait tout l'arrondissement et des commissariats de police de secteur dont chacun contrôlait le quartier qui lui était assigné. Par exemple, le commissariat de police du XVIIe se divisait en quatre quartiers – Ternes, la plaine Monceaux, Batignolles, Épinettes, et la Commissariat central dirigeait tous les quartiers. Si le nombre de personnes et le type de travail différaient selon le quartier, on plaçait généralement un secrétaire et un inspecteur relevant du commissaire et de plus, des serveurs pour maintenir la police. Outre des membres publics de l'organisation susmentionnés, on engageait facultativement des agents informateurs et des ingénieurs professionnels.

J'ai ensuite clarifié le système de commandement et le système des salaires des policiers. La structure organisationnelle de la police était celle dans laquelle le commissaire nommé par l'ex-Préfecture de police était détaché à chaque arrondissement, et il sélectionnait, en s'arrangeant avec le bureau exécutif administratif de chaque arrondissement, les secrétaires, les inspecteurs, etc. qui opéraient sous son commandement. Il s'agit de la police pour les quartiers que les organisations du mouvement ouvrier A.I.T. et des mouvements populistes, clubs, reunions publiques avaient réclamée. Cependant, pour la police rattachée à la Commission militaire, les affaires de l'administration personnelle ainsi que celles de ses frais d'administration dépendaient en bloc de la Commission militaire. Il existe un document d' archives montrant que les commissaires de chaque district avaient reçu les salaires des policiers de l'ex- Préfecture de police pour les distribuer au sein de leur commissariat de police (A.H.G., Ly19, ms. « Bordereau des Traitements du personnel du Comissariat municipal du Quartier de la Villette, pour le mois de Avril 1871 »).

Dans la section 2, j'ai décrit concrètement avec des exemples les activités des policiers en tant que responsables de l'application des lois.

Le commissaire L. Bertin a entièrement fouillé les principales églises dans le XIVe pour arrêter les prêtres et les religieuses et les exiler. En conséquence, il a presque anéanti les établissements religieux de cet arrondissement. Dans le XIIe, l'Église Saint Vincent de Paul, Maison de secours du Quartier des Quinze-Vingts (par le commissaire A. Audebrand , le 12 avril) ; le IXe, l'Église Notre-Dame-de-Lorette (par le adminstrateur délégué J. Bayeux-Dumesnil, le 4 mai) ; le XIe,

l'Église Saint Ambroise pour saisir les objets d'or et d'argent non nécessaires de la continuation de l'exercice du culte (par le commisaire central E. Riblet et le commissaire du Quartier Saint Ambroise E. Morterol, le 6 mai) ; le IIIe, l'Église Saint Jean, Saint François (par le commissaire Frossard, le 15 mai), le XIIIe, l'École des frères (par le commissaire Hamet, le 15 mai) ont fait l'objet d'une perquisition.

Le commissaire L. Porroche a déployé son activité dans le domaine de l'économie, de la sécurité et de la sécurité publique en dévoilant la dissimulation des provisions de nourriture telles que la farine de blé, et les usines de fabrication de munitions, et d'armes dans le XXe. De même, il y a eu la capture d'un charbonnier pour Versailles qui était à l'ancre près du port neuf à coté des Canonnières (par le commissaire E. Méjean de la police du quartier de Necker du XVe, le 8 avril); la capture du constructeur mécanicien pour saisir des pièces de canon et autres armes de guerre (par le commissaire E. Morterol de la police du Quartier Saint Ambroise du XIe, le 8 mai) ; la capture du sucre dans Rue d' Ourcq 77 du IXe (par le commissaire P. Elloy de la police du Quartier de la Villette du XIXe, le 13 mai).Les policiers se sont également montrés actifs en tant que responsables de l'application des lois conformément au décret etc. de la Commune de Paris quant aux décrets sur la question des loyer, sur la suppression du travail de nuit dans les boulangeries et quant à la dénonciation de la prostitution etc.

Dans la section 3, j'ai décrit les activités des policiers qui ont soutenu la vie quotidienne du peuple.

Comme citoyenne Schumer, qui habitait dans la rue Lauzin 5 du XIXe, ne pouvait pas mener une vie quotidienne normale car elle était paralysée, le commissaire municipale L. Thorembey de la police du quartier du Combat, XIXe a rempli les formalités à l'Assistance publique pour qu'elle puisse entrer à l'Hôpital de la Salpêtrière (le 16 avril). Le 5 mai, au sujet des dégâts dus aux bombardements de l'armée prussienne du mécanicien Charles Folletet et du cocher Pierre Goberyhabitant dans la rue Cardinet 134 du XVIIe, le commissaire H. Vattemare de la police du quartier des Batignolles a fait une demande concernant leur logement auprès de la Commission des logements en y ajoutant le témoignage de deux voisins. Le 10 mai, le commissaire Magne de la police centrale du IXe a traité le témoignage d'un médecin qui avait demandé à la police d'autoriser la veuve Paul Guérin habitant dans la rue de Ramey 40 du XVIIIe, à se rendre dans sa maison de famille à Marseille, sa région natale, pour cause de maladie, et aussi lui a demandé d'exempter cette femme des frais de voyage. Les policiers se sont chargés de l'aide aux habitants de leur propre chef et l'ont mise en place en coopérant avec les services de l'administration de chaque arrondissement, pour satisfaire aux demandes des habitants, et les aider grâce à leurs conseils sur leurs conditions de vie.

Comme indiqué ci-dessus, bien que les policiers, à un moment donné, en tant que responsables de l'application des lois, aient critiqué la somptuosité des rites de l'église comme le cas de la saisie des biens de l'église Ambroise dans le XIe, ils n'ont pas nié l'activité religieuse et se sont conformés à la morale et ont adopté un comportement conformes également à leurs fonctions

de policier. Ils ont offert en même temps leur aide au peuple l'un après l'autre sans hésitation comme suit : lorsque des habitants ont été hospitalisés, la police a payé les frais de transport, ils ont demandé l'exemption des frais de transport pour les femmes dans le besoin du fait de leur pauvreté même si elles voulaient se réfugier dans leur pays natal, et ont en plus, procuré des logements aux habitants qui avaient perdu leur maison dans les bombardements etc. Grâce à toutes ces actions dont se chargeaient les policiers, les gens se sont rendu compte que c'est un droit social de recevoir un soutien public plutôt que de compter sur les œuvres charitables des intéressés religieux pour résoudre leur pauvreté et leur anxiété quotidiennes et ont accumulé au fur et à mesure des expériences au point de devenir solidaires les uns des autres.

En outre, à la fin de cet article, j'ai ajouté à la liste des commissaires de la Commune conservée par les Archives de la Préfecture de police, l'existence des commissaires découverte lors d'une enquête aux Archives Historiques de la Guerre pour la corriger et je l'ai annexée à cet article en liste.

Pour la rédaction de cet article, j'ai utilisé des documents historiques qui n'avaient jamais été cités jusqu'à présent, même en France, tels que les séries Ly17, Ly18, Ly19, Ly192, Ly27 conservée aux Archives Historiques de la Guerre, les documents du suspect qui y sont conservés également, les documents historiques conservés aux Archives de la Préfecture de Police et ceux conservés aux Archives de Paris. Nous remercions les établissements ci-dessus.

Les commissaires de police sous la Commune de Paris, 1871

	A.P.P.(Ba364-3)	A.H.G.(Ly17, 18, 19, 192, 22, 27)	
arr.	commissaire		
1	Rouillier		
2	Durut		
3	Terssié Rimbert Froissard Blondeau	Coquelin / Q. Sainte Avoye (Ly17) Frossard (Ly17)	
4	De la Combe		
5	Guillemin Beyhine Houldinger Gausselin		
6	Castallon Journaux Dhury	Dupont / Q. Odeon (Ly19)	
7	Balseng Dorcy Javelot Girich		
8	Billault Bleine Nicolaï Caisso		
9	Nagnes Marrelles Michel James	Portalier / Administrateur. (Ly18) Guerin / Administrateur (Ly18) Bayeur-Dumesnil / Administrateur (Ly18)	Magne / Commissaire central (Ly18)
10	Robin Landowski Vinchon Blanc		
11	Henry Gentier Curot Notre	Heuzey / Q. Folie-Melicourt (Ly18) Gentil / Q. Saint-Ambroise (Ly18) Curot / Q. La Roquette (Ly18) LeNôtre / Q. Sainte-Marguerite (Ly18)	Riblet / Commissaire central (Ly18) Morterol / Q. Saint-Ambroise (Ly18) Peschard / Sainte-Marguerite (Ly18) Jaud, J. / officier municipal (Ly180718)
12	Clavier Bugnottet Mandavy	Clavier / Commissaire central & Q. Picquepus (Ly18) Bugnottete / Q. Bercy (Ly18) Audebrand / Q. Quinze-vingts (Ly18)	Neant / Q. Bel-air (Ly18) Blondeau / Q. Quinze-vingts (Ly18)
13	Larmier Hanret	Comte / secrétaire général Hamet /Q. Maison Blanche (Ly19)	
14	Berthier, Adolphe Bailly Bourpière	Bertin, Louis Adolphe / Q. Montparnasse (Ly19) Bailly / Q. délégué à Sante (Ly19) Bompièrre / Q. Plaisance (Ly19)	Calin / Q. délégué de la commission de Surete à Tomb Isoire (Ly19) Bourson / Q. Plaisance (Ly19)
15	Cirode Mégen Caigier	Cirode / commissaire de la Sûreté Générale à Javel-St. Lambert (Ly19) Méjean / Q. Necker (Ly19)	Bochard, Louis / Q. Javel-St. Lambert (Ly19)
16	Delcambre Grimomprez		
17	Mangold Wattemare Maillard	Mangold / Q. Terne (Ly18) Vattemare / Q. Batignolles. (Ly18) Lubert / Q. Epinettes (Ly18)	Michel / Commissaire central (Ly18)
18	Eblot Gautier, Pièrre Degeorge	Schneider / délégué civil à La Goutte-d'Or (Ly19) Nepveux / délégué civil aux Grandes Carrieres (Ly19) Burlot / Q. Clignancourt (Ly19)	Dauphin, Ernest / Commissaire central (Ly19) Le Moussu / Q. Grandes Carrieres (Ly19) Duchamp / Q. Clignancourt (Ly19)
19	[blanc]	Elloy, Pierre / Q. La Villette (Ly19) Gautier, Pierre Martin / Q. Amerique (Ly19) Thorembey, Louis / Q. Combat (Ly19)	Dagrant / Q. Amerique (Ly19)
20	Nerrach Roussel Jouanin	Lemoine, Charles / Q. Belleville (Ly19) Rousselle / Q. Saint Fargeau (Ly19) Jouannin / Q. Charonne (Ly19)	Porroche / Q. Belleville (Ly19) Antoin, Jules / Q. Belleville (Ly19) Chemery / Q. Pere Lachaise (Ly19)
Commission de la guerre		Gardembois, Louis Joseph (Ly18)	
St. Denis		Dulac (Ly192)	
Vincenne		Vandenbusche (Ly192)	